

令和4年度3学期 始業式の話 令和5年1月10日

宮島幼稚園のみなさん、おはようございます。そして、新年明けましておめでとうございます。いよいよ3学期のスタートですね。この数字は何かわかりますか。そうです。幼稚園に来る日です。3学期一番短い学期です。幼稚園にくる日数は、年長さんは51日です。年中さんと年少さんは52日です。卒園式は3月23日ですから、年長さんは一日短いんですね。幼稚園最後の学期ということになります。

さて、新しい年が明けて、「よし、3学期はがんばるぞ。」「3学期これができるようになるぞ。」そんな思いで、今日幼稚園に来たことと思います。

ここで、3学期にがんばりたいことを発表してくれる人はいますか。

園長先生からみなさんに3学期頑張っで欲しいことを言います。

- ① あいさつをいっぱいしよう
- ② ひとのはなしをさいごまできこう
- ③ じぶんからすすんでうごこう
- ④ さいごまであきらめないでがんばろう
- ⑤ みんなでちからをあわせてがんばろう

今日は園長先生の大好きな絵本を読みます。題は「ずーっとずーとだすきだよ」です。

- エルフィーのことを話します。エルフィーは世界で一番素晴らしい犬です。
- ぼくたちはいっしょに大きくなりました。でも、エルフィーの方がずっと早く大きくなったよ。ぼくはエルフィーのあったかいお腹をまくらにするのが、好きだった。そして、ぼくらはいっしょに夢を見た。
- お兄さんや妹も、エルフィーのことが大好きだった。でも、エルフィーはぼくの犬だったんだ。
- エルフィーとぼくは、毎日一緒に遊んだ。

- エルフィーは、リスを追いかけるのが好きで、ママの花壇を掘りかえすのが、好きだった。
- ときどき、エルフィーが悪さをすると、うちの家族はすごく怒った。でも、エルフィーを叱っているながら、みんなはエルフィーのことを大好きだった。
好きなら好きと言ってやればよかったのに、だれも、言ってやらなかった。言わなくともわかると思っていたんだね。
- いつしか時がたっていき、ぼくの背がぐんぐん伸びる間に、エルフィーはどんどん太っていった。
- エルフィーは、歳をとって寝ていることが多くなり、散歩を嫌がるようになった。ぼくはとても心配した。
- ぼくたちはエルフィーを獣医さんい連れて行った。でも、獣医さんにもできることは、何もなかった。
「エルフィーは、歳をとったんだよ。」
獣医さんはそう言った。
- まもなくエルフィーは階段ものぼれなくなった。
でも、エルフィーは、ぼくの部屋でねなくちゃいけないんだ。
- ぼくは、エルフィーにやわらかいまくらをやって、寝る前には必ず、「エルフィーずっと大好きだよ。」って言ったやった。
エルフィーは、きっとわかってくれたよね。
- ある朝、目を覚ますと、エルフィーが死んでいた。夜の間死んだんだ。
- ぼくたちは、エルフィーを庭に埋めた。みんな泣いて肩を抱き合った。
兄さんも妹も、エルフィーが大好きだった。でも、好きって言ってやらなかった。ぼくだって、悲しくてたまらなかったんだけど、いづらか、気持ちが楽だった。だって毎晩エルフィーに「ずーっとずっと大好きだよ」って言ってやっていたからね。

- となりの子が子犬をくれると言った。もらってもエルフィーは気にしないとわかっていたけど、ぼくは、いらないって言った。かわりに、ぼくが、エルフィーのバスケットをあげた。ぼくより、その子の方がバスケット、いるもんね。
- いつかぼくも、他の犬を飼うだろうし、子猫も金魚も飼うだろう。何を飼っても毎晩言ってやるんだ。「ずーっとずっとだいすきだよ。」って。

このお話を聞いて どう思いましたか。宮島幼稚園のみなさんも、このぼくのように、やさしくて、ほかほかハートだらけだったらいいなと思います。

ともだちにやさしくすると、やさしさが返ってきます。

さあ、宮島幼稚園のリーダーとして頑張ってきたすみれ組さんは、3月23日の卒園式は、きらきら輝いて卒園してほしいと願っています。そのためにはあと3か月、すみれ組の良いところ、かっこいいところをいっぱい出してくださいね。最後までお手本として頑張ってください。

ひまわり組さんは、すみれ組さんの良いところ、かっこいいところを受け継いで、今度は自分たちがお手本として頑張っていく番です。3学期はその準備をしましょうね。

そして、ちゅうりっぷ組さんは、4月には一つ上の学年になります。新しく入ってくるちゅうりっぷ組さんに、いろんなことを教えてあげられるように頑張ってくださいね。

さあ、3学期、新しいスタートラインを引き直して、また頑張りしよう。

頑張る合言葉は、「やれば できる！」ですね。